

皆様おはようございます 1月最後の礼拝の時を迎えております。

一時から比べましたらだいぶ厳しい寒さから解放され、青空を見る、最近はそのようなほっとするような天気でした。まもなく立春。暦の上では春と言うような頃となって参りました。しかし寒さはまだまだ本番。油断せず2月を乗り切りたいと思います。

寒さを我慢する中で知らず知らずに体に疲れが溜まっていることもあるかもしれません。努めて休息していただき、ご自愛いただきたく願います。

今日はヨハネ福音書の5章の締めくくりのところです。5章ではベトザタの池にいた病人を癒す出来事から始まっていました。38年病気で苦しんでる人でしたが、その間誰も助けてくれない、その池の中に入れてくれる人がいないという、孤立無縁な人でした。しかしついにこの人の前にイエス様は立ってくださいました。そしてたちどころに、御言葉によって癒しを与えてくださいました。

安息日にこのような癒しが起こったということで論争になりました。そしてイエス様はご自身が神様の元から遣わされた方であり、そしてイエス様の言葉を聞いてイエス様を遣わしになった方を信じる人、つまり、神様はこのイエス様を遣わしになったそういう神様なんだということを知る人は、永遠の命を得て裁かれる事なく、死から命に移っているという、そのことを宣言されました。父は死者を復活させ命を与えるように、子も与えたいと思うものに命を与える、御子とはそのような存在であるということ語られました。

31 「もし、わたしが自分自身について証しをするなら、その証しは真実ではない。

申命記 19章 15節にありますように律法によれば2人または3人の証人が必要であって、自分自身のためにする証言は無効であったということでした。そこで今日は洗礼者ヨハネによる証言があり、主がなさる御業によって父なる神様が証言しておられるという事、そして、父なる神様ご自身が語られたそのことによって幾重にもイエス様が遣わされた方であるということ証されているということをイエス様が語っておられます。そしてモーセまた引き合いに出されています。

「私」という言葉がたくさん今日の個所では出てきます。「あなた方」という言葉も多いです。「わたしについての証し」という言葉も多いです。イエス様は本当に真剣になって、「この私が」神から遣わされたものなんだ、そしてこの私を信じる者に神の御言葉がとどまっており、永遠の命がある、命を得るために私のもとに来なさいとイエス様は語っておられます。

38 また、あなたたちは、自分の内に父のお言葉をとどめていない。父がお遣わしになった者を、あなたたちは信じないからである。

5:39 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

5:40 それなのに、あなたたちは、命を得るためにわたしのところへ来ようとしない。

46 あなたたちは、モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。モーセは、わたしについて書いているからである。

確かに父なる神様から遣わされた私なのだ、信じて命を得てほしいとの、ほとぼしするようなイエス様のお言葉が並んでいます。

31 「もし、わたしが自分自身について証しをするなら、その証しは真実ではない。32 わたしについて証しをなさる方は別におられる。そして、その方がわたしについてなさる証しは真実であることを、わたしは知っている。

5:33 あなたたちはヨハネのもとへ人を送ったが、彼は真理について証しをした。

5:34 わたしは、人間による証しは受けない。しかし、あなたたちが救われるために、これらのことを言うておく。

5:35 ヨハネは、燃えて輝くともし火であった。あなたたちは、しばらくの間その光のもとで喜び楽しもうとした。

5:36 しかし、わたしにはヨハネの証しにまさる証しがある。父がわたしに成し遂げるようにお与えになった業、つまり、わたしが行っている業そのものが、父がわたしをお遣わしになったことを証ししている。

私は自分だけでこのことを言っているのではなくて、私についての多くの証があるから見てほしい。ヨハネは燃えて輝くともし火だった。

洗礼者ヨハネ悔い改めを説いて私の後に及びもつかない方が来られると語り、そして救いの到来を彷徨とさせ、国を挙げて洗礼者ヨハネの前に洗礼を受けた。そしてそのこれから来る素晴らしいメシアの到来を期待させた燃えて輝く灯のようであった。彼はぱっと現れそして、罪の悔い改めを語り、その内容は悪しき王、ヘロデ王にとって受け入れがたいところとなり、その光は取り去られてしまいました。人々はしばらくその光のもとで喜び楽しもうとしました。しかし彼は人の悪と罪のゆえに抹殺され、取り除かれました。不都合なその言葉を聞きたくない、人間の罪の性質が彼を取り除きました。獄の中で首をは

ねられ、彼は取り除かれました。それは夜でした。その暗さと闇は、人の罪のを暗示しています。

36 しかし、わたしにはヨハネの証しにまさる証しがある。父がわたしに成し遂げるようにお与えになった業、つまり、わたしが行っている業そのものが、父がわたしをお遣わしになったことを証している。

イエスキリストはヨハネの証しに勝る証しがあります。それは、正しきものを抹殺しようとするその人間の暗闇に際して、主が身代わりとして十字架の死を遂げてくださり、死んでも死なず、復活し、そして消えることなくいつまでも燃えて輝く灯火として輝き続ける証しの働きです。神様の御働きかけがあってイエス様は成し遂げるようにと定められたこの大きな業をなさいました。そのことによってイエス様が誠に神様の身許から遣わされた方であるということが、その死と復活によって明らかに示されました。

37 また、わたしをお遣わしになった父が、わたしについて証しをしてくださる。あなたたちは、まだ父のお声を聞いたこともなければ、お姿を見たこともない。

マルコ 9 章 7 節すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」

遣わされた父がイエス様について証をしていると言う箇所がここにあります。洗礼者ヨハネが証ししました。神様が十字架の出来事によってまたイエス様のすべての不思議な御業によって証をされました。そして神ご自身がイエス様について、「これはわたしの愛する子。これに聞け。」と荘厳な雷のような声で語り掛けられました。これだけの証があるのだからあなたたちは、あなたたちは私を遣わされたものとして信じなさいと、イエス様は語り掛けられます。

38 また、あなたたちは、自分の内に父のお言葉をとどめていない。父がお遣わしになった者を、あなたたちは信じないからである。

父がお遣わしになった者を、あなたたちは信じないから、あなたたちは、自分の内に父のお言葉をとどめていない。

イエス様は、誠に救いの中心です。啓示の中心であり、奥義の中心です。この遣わされた方を信じないのなら、私たちは父なる神様のお言葉を理解できないし、心の内に御言葉を住まわせることもできないのです。

しかし、このお方を信じるのならば、自分のうちに父なる神様のお言葉を留めるのです。

5:39 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

5:40 それなのに、あなたたちは、命を得るためにわたしのところへ来ようとしな

い。永遠の命を求めて聖書を熱心に研究するユダヤ人たち。律法学者、祭司たち。しかし、その聖書は、イエス様を指し示しているのに、そこに永遠の命に至る救いがあるのに、それなのに、人々は、命を得るためにイエス様のところへ来ようとしません。

聖書はイエス様について証をしており、聖書の中にある永遠の命それは遣わされたものである主を抜きにしては理解することもできないし手に入れることもできないのに、人々は救いの中心に気付かずにいます。

イエス様は、十字架の贖いによって永遠の命が与えられそのために罪の贖いとして私が苦しみを受け十字架につくのだからと信じてなさい、聖書は私について証をすると言っていることを信じてなさい。この遣わされた私を救いの核心である私を信じないものは命を留めることもできない、永遠の命を手にすることもできない。私に目を留めなさい。私についての証に目を留めなさいと語られます。

41 わたしは、人からの誉れは受けない。

5:42 しかし、あなたたちの内には神への愛がないことを、わたしは知っている。

5:43 わたしは父の名によって来たのに、あなたたちはわたしを受け入れない。もし、ほかの人が自分の名によって来れば、あなたたちは受け入れる。

5:44 互いに相手からの誉れは受けるのに、唯一の神からの誉れは求めようとしな

いあなたたちには、どうして信じることができようか。私は人からの誉れは受けない。しかしあなた方のうちには神への愛はなく、人間同士、神様を抜きにして、互いにちやほやして互いに仲良く接して、神様が不在でもそれで事足りると考えている。神様抜きで満足している。あなたたちの内には神への愛がないという言葉は本当に悲しい言葉です。

私は救いのために遣わされて来たのにあなたたちは私を受け入れない。もし他の人が自分の名によって来ればあなたたちは互いに相手からの誉を受けて互いに褒めそして互いに認めそういうことに終始して、最も大切な唯一の神からの

誉れを求めることをしない。誉を求めず、目立たず、主張せず、押しのけず、目立たず、謙遜に仕え続けるイエス様を、本当は世の造り主で、皆この方の御前にひれ伏し礼拝すべきこのお方を前にして、自分の誉れを求めず、目立たないことを良しとして、無視し、敵対し、対に十字架につるし上げる。それは全く洗礼者ヨハネを異物として葬ったのと同じ、人の傲慢と愚かさ、無知蒙昧のなせる技、暗闇の所業です。

自分の求めるところに安住して、そして自己批判することもなければ自分の罪を悔い改めることもしないのならば、神様からの救いを手にすることもできないでしょう。

互いに慰めあって賞賛しあってそれで人生進んでいくことができるならば本当にそれで越した事は無いけれどもそこに救いはないことをバプテスマのヨハネは指し示しました。そのように心の底から悔い改めそしてそこにやってくる救い主を受け入れるべく、父の名によってこられた方を感謝して自らの贖い代として受け入れると言うことがいのちの道なのに、事耳障りの良い、そしてお世辞おべっかを使って互いに居心地の良いところに居続けることを人は良しとして、「命を得るためにわたしのところへ来ようとしなさい。」のです。

自分の罪を認めて、問題を認めて、そして神様の下から遣わされた救い主を受け入れること、そのことをさせようとしなさい巧みに妨害し、私たちが本当に大事なものを見るべきものを見なければならぬものを見ることを阻害させる働きがあります。

身内の居場所の良い相手を褒め合うようなもたれあいの中から脱して、自分本位で考えることから脱して、自分の心の内を吟味せずに深く考えないで日に日に過ごしてしまう、そういう諸々の自らを愛し、神への愛がない心の状態、そのような人の弱さを考えますに、胸に刺さる思いがいたします。

45 わたしが父にあなたたちを訴えるなどと、考えてはならない。あなたたちを訴えるのは、あなたたちが頼りにしているモーセなのだ。

5:46 あなたたちは、モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。モーセは、わたしについて書いているからである。

5:47 しかし、モーセの書いたことを信じないのであれば、どうしてわたしが語ることを信じることができようか。」

申命記 18 章 18 節にはこうあります。「わたしは彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立ててその口にわたしの言葉を授ける。彼はわたしが命じることをすべて彼らに告げるであろう。19 彼がわたしの名によってわたしの言葉を語るのに、聞き従わない者があるならば、わたしはその責任を追及する。」モーセの律法は素晴らしいものですがそれもそれを行っていくことがで

きる人はいません。律法は人に罪を示します。それをことごとく守ることができない人間の罪の有り様を明らかにする養育係のような存在であると聖書は語ります。

モーセの律法で事足りるのであれば、何の問題も起こらなかったはずで、それ以上の預言者も必要なかったかもしれません。しかし、神様はモーセに、「わたしは彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立ててその口にわたしの言葉を授ける。」と語られました。そしてそれが神の国の到来を告げたイエス様でした。律法を守ることのできない人類に対する神様のみ旨、それは、遣わされたものを受け入れ、その語る場所に聞き従うという事でした。

今日私たちに示されることというのは本当に自分本位でなく神様が私たちにどのようなことを願っておられるのかって言うことを深く胸に手を当てて考えるという事であり、そのために神様は幾重にも、イエス様についての証を立てて下さっておられるという事です。

主の御業は、「燃えて輝くともし火であった。あなたたちは、しばらくの間その光のもとで喜び楽しもうとした。」というおぼろげな光であり、消えてしまう光ではなくて、永遠に輝き続ける光です。困難の中にあっても滅びず、死しても復活の力を受ける光です。

命を得るためにイエス様のところに行くと言う事、イエス様をお遣わしになった神様の御心深く心に刻んで、人からの称賛を受けるよりも、聖霊により自己吟味して進み、やがて天にてお褒めの言葉を頂くように、心を低く、イエス様のうちに沈潜して進むと言うこと、それが私たちに示されている生活なのではないでしょうか。